

所員活動一覽（二〇一七年四月一日～二〇一八年三月三一日）

荒木 浩

● 著書

『ひと・もの・知の往来―シルクロードの文化学』（近本謙介・李銘敬と共編）勉誠出版 二〇一七年五月 二二―三六頁

● 論文

『古典文学の現代的・国際的投企性（projection）―視覚とメディアをめぐる事例紹介と展望―』『日語日文學研究 日本文學・日本學篇』第

一〇〇輯二卷 二〇一七年四月 二一―三六頁（査読付き）

『今昔物語集』の成立と宋代―成尋移入書籍と『大宋僧史略』などをめぐって―』吉川真司・倉本一宏編『日本の時空観の形成』思文閣出

版 二〇一七年五月 三三五―三八六頁

『投企される〈和国性〉―『日本往生極楽記』改稿と和歌陀羅尼をめぐる―』荒木浩・近本謙介・李銘敬共編『ひと・もの・知の往来―シルク

ロードの文化学』アジア遊学 208 二〇一七年五月 一八六―二〇四頁

『散文の生まれる場所―〈中世〉という時代と自照性―』『中世文学』六二号 二〇一七年六月 二四―三三（査読付き）

『出家譚と妻と子と―仏伝の日本化と中世説話の形象をめぐる―』『東アジアの仏伝文学』二〇一七年六月 四五―五九三頁

『国文学史』の振幅と二つの戦後―西洋・「世界文学」・風景景次郎をめぐる―』井上章一編『学問をしばるもの』思文閣出版 二〇一七年一〇

月 一四五―一六四頁

『出産の遅延と二人の父―『原中最秘抄』から観る『源氏物語』の仏伝依拠―』『国語と国文学』平成三十年二月号（第九十五卷第二号）通卷

千百三十一号）二〇一八年一月 一―一九頁（招待）

『妊娠小説』としてのブッダ伝―日本古典文学のひながたをさぐる―』郭南燕・将基面貴已編『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、

芸術』国際日本文化研究センター 二〇一八年三月 五三―六五頁（査読付き）

● その他の執筆活動

「捨身する古典性」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 95 二〇一七年五月

「歌を詠む心」中世文学から考える」『鶴岡』No. 125 二〇一七年六月

「インタビュー 知の探求者たち」『毎日新聞』（大阪・夕刊）二〇一七年六月一日

「文遊回廊」（連載六回）『京都新聞』二〇一七年一〇月二六日号～二〇一八年三月二二日号

「日常としての「国際化」と「学際化」」『リポート笠間』六三号 二〇一七年一月

「おのれを知る」京都新聞「日本人の忘れもの」二〇一八年一月一日号

「インタビュー 今月のお宝 夢の描き方」『京都新聞』（データベースの森）二〇一八年一月一七日

「日中行事関係実書断簡（『釈摩訶衍論科文』紙背）（翻刻）」後藤昭雄監修、中原香苗・米田真理子共編『天野山金剛寺善本叢刊 第二期 第三卷 儀礼・音楽』勉誠出版 二〇一八年二月 四〇六～四〇九頁

「日中行事関係実書断簡（『釈摩訶衍論科文』紙背）（解題）」後藤昭雄監修、中原香苗・米田真理子共編『天野山金剛寺善本叢刊 第二期 第三卷 儀礼・音楽』勉誠出版 二〇一八年二月 五五七～五六四頁

「書評 トーマス・ハーバー、ハルオ・シラネ編『源氏物語』を読む——十世紀からの文献群』『日本研究』第五七集 二〇一八年三月

石上 阿希

●論文

「『訓蒙図彙』考序論…絵入百科事典データベース構築とともに」郭南燕・将基面貴巳編『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、芸術』

国際日本文化研究センター 二〇一八年三月 六九～七八頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「インタビュー 発信・再発見ニッポン 江戸の風俗カラリ 日本初の「春画博士」」『日本経済新聞』二〇一七年四月三〇日

「尋常ならざる春画はなぜ生まれたのか？」『とんでも春画—妖怪・幽霊・けものたち—』二〇一七年五月

「英国 禁断の絵師・河鍋曉斎」『京都新聞』二〇一七年五月三〇日

「近世期における春画の用途と享受者」松田浩・上原作和・佐谷真木人・佐伯孝弘編『古典の常識を疑う』勉誠出版 二〇一七年六月 二二四～二二七頁

「探検！データベースの森 平安京都名所図会DB」『京都新聞』二〇一七年六月二二日

「インタビュアー 世の中の挑戦者たち」『Kamome』二〇一七年七月

「日本初の絵入り百科DB化」『京都新聞』二〇一七年七月二〇日

「解題 『色ひいなる形』、『情ひなる形』、『風流足分船』、『風流御前二代曾我』、『浮世草子大事典』 二〇一七年一〇月

「ごぞんじですか？」近世期絵入百科事典データベース」について（共著）『専門図書館』No.286 二〇一七年一月 三六～三九頁

「春画展をめぐる報道―近現代の春画受容史」『第14期「メディアアと法」研究会記録』 二〇一八年一月

「解題 『恋相撲続十二手』、『上方恋修行』、『仮名手本夜光玉』、『百夜町仮宅通』、『春色初音之六女』、『別冊太陽 国貞の春画』 二〇一八年二月

「センター通信」イギリス人宣教師の手紙」『日文研』六〇号 二〇一八年三月 四五～四七頁

石川 肇

● 著書

『舟橋聖一の大東亜文学共栄圏―「抵抗の文学」を問い直す―』晃洋書房 二〇一八年三月 一九二頁

● 論文

「阿部知二の手紙―新資料「舟橋聖一宛て書簡・葉書」の全て―」『阿部知二研究』Vol.24 二〇一七年四月 四～二二頁

● その他の執筆活動

「京の姿なき競馬場」(馬の文化)手帖Season2」第12回)『週刊Gallop』産業経済新聞社 二〇一七年四月

「インタビュアー 戦争と舟橋聖一 問い直す」『読売新聞』(夕刊) 二〇一八年三月十五日

磯田 道史

● 著書

『司馬遼太郎』で学ぶ日本史』NHK出版 二〇一七年五月 一八七頁

『日本史の内幕』中央公論新社 二〇一七年一〇月 二五〇頁

『明治維新で変わらなかった日本の核心』(猪瀬直樹と共著) PHP 二〇一七年一月 三〇二頁

『素顔の西郷隆盛』新潮社 二〇一八年三月 二六八頁

● その他の執筆活動

「インタビュアー 忍者研究、実像に迫る」『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年四月七日

「書評 川上仁一著『忍者の掟』／高尾善希著『忍者の末裔』」『毎日新聞』 二〇一七年四月九日

「浦上玉堂と私」『玉堂清韻社報』 二〇一七年四月

「古今をちこち」(連載一二回)『読売新聞』 二〇一七年四月二日～二〇一八年三月一四日

「インタビュアー 日本を探求 日文研30年の歩み(下)」『産経新聞』 二〇一七年五月二二日

「インタビュアー 創立30周年記念講演会」『京都新聞』 二〇一七年五月二四日

「書評 倉本一宏著『戦争の日本古代史』」『毎日新聞』 二〇一七年六月一八日

「インタビュアー 京都大好きトーク第41回 門川大作とゲストの『ぎょうかん対談』」『京都新聞』 二〇一七年七月八日

「データベースの森「江戸の鯨絵」」『京都新聞』 二〇一七年七月一九日

「インタビュアー 先輩に聞く 失敗から学ぶ」『日本経済新聞』 二〇一七年八月二二日

「対談 談 古文書から届いた肉声」(連載五回)『産経新聞』(夕刊) 二〇一七年八月二三日～九月一日

「想像力かき立てる「磁場」(特別面「司馬の幕末 京李行 動乱の世燃える志」)『読売新聞』 二〇一七年一〇月三一日

「インタビュアー 都の人情」『京都新聞』(一日版) 二〇一七年十一月一日

「しんぶん日和 第一回」『スタイルアサヒ』 二〇一七年十一月

- 「対談 京滋の文化芸（松坂浩史、定家亜由子と）」『京都新聞』二〇一八年一月一日
- 「対談 新春対談二〇一八（上） 歴史と対話「今」を知る（橋本五郎（読売新聞特別編集委員）と）」『読売新聞』二〇一八年一月一日
- 「インタビュー 日本とパリの「愛のかたち」」『オール讀物』第七三巻第一号 二〇一八年一月
- 「対談 新春対談二〇一八（下） 名宰相の覚悟に学べ（橋本五郎（読売新聞特別編集委員）と）」『読売新聞』二〇一八年一月三日
- 「インタビュー 1/7 京都・明治一五〇年シンポジウム」『京都新聞』二〇一八年二月二八日

磯前 順一

● 著書

- 『「死者／生者」論 ― 傾聴・鎮魂・翻訳―』（鈴木岩弓・佐藤弘夫と共編）ベリかん社 二〇一八年三月 三二七頁
- 『なぜ国際日本研究なのか』（松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編）晃洋書房 二〇一八年三月 一五一頁

● 論文

- “Religion, Religious Studies, and Shinto in Modern Japan,” Richard King ed., *Religion, Theory, Critique: Classic and Contemporary Approaches and Methodologies*, Columbia University Press, July 2017, pp. 87-96

「津田左右吉の文献学と儒学的合理主義——人文学的批評はいかにして可能になるか」『WASEDA RILAS JOURNAL』No. 5 二〇一七年一〇月 三三二―三四〇頁

“Revering Heaven and Prostrating before the Earth: History of the Shinto Fushimi Inari Great Toyo Church,” Michael Wachutka and Monika Schrimpf and Birgit Staemmer eds., *Religion, Politik und Ideologie: Beiträge zu einer kritischen Kulturwissenschaft*, Indivium, January 2018, pp. 87-102

伊東 貴之

● 著書

- 『呂留良与崇徳人文』（論文集）（徐玲芬（主編）、共著）浙江古籍出版社 二〇一七年一〇月 三八〇頁

『心身／身心』と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―〔国際シンポジウム49〕(第49回国際研究集会)〔編著〕国際日本文化研究センター 二〇一八年三月 二七八頁

●論文

「我們是如何認識傳統中國的…學術論争与儒教之影」(中国語)『社会科学戦線(SOCIAL SCIENCE FRONT)』月刊・総第二六二期・二〇一七年第四期 二〇一七年四月 二四四～二五二頁

「心的軌跡與身體性」由朱子學、陽明學、清代思想的考察―(中国語)『儒学与時代・復旦大学上海儒学院首届年会論文集』 二〇一七年九月 一二四～一二八頁(査読付き)

「心の軌跡と身体性」朱子學、陽明學、清代思想から考える―『儒学与時代・復旦大学上海儒学院首届年会論文集』 二〇一七年九月 一二八～一三五頁(査読付き)

「政治化」的朱子学―呂留良事件的立場(共著)『呂留良与崇德人文(論文集)』浙江古籍出版社 二〇一七年一〇月 一六～四〇頁(査読付き)

「東アジアの「近世」から中国の「近代」へ―比較史と文化交流史／交渉史の視点による一考察―」『中世日本の王權と禪・宋学(東アジア海域叢書15)』汲古書院 二〇一八年三月 五九～九〇頁

●その他の執筆活動

「儒教―中華帝国の支配理念」(一三二～一三三頁)、「政治の原理―道徳としての政治」(一八八～一八九頁)、中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』丸善出版 二〇一七年四月

「高啓」(六七二頁)、『論語』(六九四頁)、「王羲之」(二八五頁)、「支那」(六七六頁)、小森陽一・飯田祐子・五味潤典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編『漱石辞典』翰林書房 二〇一七年五月

「書評 絶えざる「連鎖空間」としてのアジア―「実体化」を排した「関係」主義的な「アジア」論の提唱の試み 山室信一『アジアの思想史脈―空間思想の試み』アジアびとの風姿―環地方学の試み』『週刊読書人』第三一九九号 二〇一七年七月

「翻訳 恩田裕正・林文孝・松下道信と共訳注『朱子語類 卷四「人物之性氣質之性」篇訳注(二) 一条～二四條』『中国哲学研究』第二九号

東京大学中国哲学研究会 二〇一七年七月（査読付き）

「解説 劉曉波の訃報に接して考える——東洋的な平和主義の伝統と非暴力・不服従の抵抗（二〇一七年／中国文学・文化 年末回顧）」『図書新聞』三三三二号 二〇一七年一二月

稲賀 繁美

● 著書

A Pirate's View of World History: A Reversed Perception of the Order of Things From a Global Perspective, ed., International Symposium, no.50, International Research Center for Japanese Studies, August 2017, 174 pages.

『日本美術史の近代とその外部』NHK出版 二〇一八年三月 一三三三頁

● 論文

「日本における西」『あぐた』一三三二号 二〇一七年四月 一九〜二六頁

「竹山道雄を読む：贋金の裏から真理が現れる」『竹山道雄セレクションⅢ 美の旅人』二〇一七年五月 五五〜五六四頁

“Crossing the Borders between the Living and the Dead: An Insight into Knowledge Transfer and Issues of Post-War Reconciliation” 『世界の日本研究 2017：国際的視野からの日本研究』二〇一七年五月 三四八〜三五八頁（査読付き）

「国際日本研究」の現状と課題：機関としての日文研の運営との関連で」『日本研究』第五五集 二〇一七年五月 七三〜八三頁（査読付き）

“Western Modern Masters Measured on the East-Asian Literati Template: Hashimoto Kansetsu and Kyoto School Sinology.” *Art/Histories in Transcultural Dynamics: Narratives, Concepts, and Practices at Work, 20th and 21st Centuries*, August 2017, pp. 31-46（査読付き）

「オックスフォード・穴窯プロジェクト：世界に行脚する懐石と英国で窯焚きした備前焼」『あぐた』一三三四号 二〇一七年八月 二八〜三二頁

“A Pirate's View of the History of Art Commerce: Beyond an Oceanic View of Civilizations,” Inaga Shigemi ed., *A Pirate's View of World History: A Reversed Perception of the Order of Things From a Global Perspective*, International Symposium, no.50, International Research Center for Japanese Studies, August 2017, pp. 107-125

“Kuki Shuzo and the Idea of Metempsychosis: Recontextualizing Kuki's Lecture on Time in the Intellectual Milieu Between the Two World Wars,” *Japan Review*, No. 31, November 2017, pp. 105-122 (査読付き)

「豪奢と静寂と遊蕩の果てに」第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ瞥見』『あいだ』二二六号 二〇一七年一月 一六〇二五頁

「見知らぬ島へ」竹久夢二の夢とあこがれ」竹久夢二学会の旗揚げに寄せて』『竹久夢二研究』竹久夢二学会 学会誌 創刊号 二〇一七年二月 二七〇三頁【再掲載】(あいだのすみっこ不定期漫遊連載24回)『あいだ』二二五号 二〇一六年四月刊を再録)

「グローバル化時代における「社会設計」— Social Design の未来にむけて」アンドルー・ゴードン、瀧井一博編『創発する日本へ』ポスト「失われた20年」のデッサン』弘文堂 二〇一八年二月 二六三〇二九二頁(査読付き)

「日本美術における戌」犬一干支シリーズ』『あいだ』二三八号 二〇一八年二月 二六〇三五頁

●その他の執筆活動

「大津絵今昔」世界の目からみた庶民信仰の再評価』『図書新聞』三二九九号 二〇一七年四月

「解説 歴史哲学としての『中国書史』—その「詩想」の「うつわ」と「うつし」」石川九楊著作集別巻Ⅱ『中国書史』 二〇一七年五月 八九九〇三頁

「大学の再定義—巢立ちの礎として—」『京都新聞』(夕刊) 二〇一七年四月二六日

「妖怪と戯れて—学的想像力の現在—」『京都新聞』(夕刊) 二〇一七年六月一日

「書評 「我に触れるな」の禁令に対峙する、美的現代性の桎梏—視覚性から触覚性への転回へ—」『図書新聞』 二〇一七年六月

「インタビュアー 「ハッキングから偽ブランドまで」：「海賊」新たな世界像探る」『海賊史観からみた世界史の再構築』『京都新聞』 二〇一七年六月五日

「インタビュアー 「海賊史観」という視点—良識なき現代の鍵に—」『毎日新聞』(夕刊) 二〇一七年六月八日

「日本の高等教育・学術研究の財政基盤はどうなっているのか—国立大学附置研究所・センター長会議(五月二五〇二六日)を傍聴して—」『図書新聞』三三〇七号 二〇一七年六月

「意志的主体による責任」という「虚構の必要悪」…「中動態」から社会正義の根幹を問い直す(上)」『図書新聞』三三〇八号 二〇一七年六

月、「中」『図書新聞』三三三〇九号 二〇一七年七月、「下」『図書新聞』三三一四号 二〇一七年八月

「ふたたび、「力を抜く」稽古について」『かみはま合気道』二〇一七年度版 第一九号 二〇一七年八月

「巻頭言 天心・岡倉覚三と五浦・イギリス・ロマン主義特輯号の余白に」『比較文学研究』一〇三号 二〇一七年九月 一〜六頁

「凧（いかのぼり）きのふの空のありどころ…真偽の狭間から立ち昇る贈与の生氣」『図書新聞』三三二九号 二〇一七年二月

「虫の音も草の底なる夜長かな…内と外から見た文明体としての徳川・日本」『図書新聞』三三三〇号 二〇一七年二月

「横綱相撲」（江口朴郎）と評された或る人文学者の仕事を、膨大な資料から復元する…島田謹二伝―日本文学の「横綱」を読む」『図書新聞』三三三二一号 二〇一七年二月

「力を抜くこと…一教の稽古のための初歩的な覚え書き」『赤門合気道』平成二九年度 第五八号 二〇一七年二月

「「私の顔を踏むがいい」の系譜―普遍宗教との接触の「足跡」に「日本語文学」の展開を見る」郭南燕編著『キリシタンが拓いた日本語文学

―多言語多文化交流の淵源』『図書新聞』三三三三六号 二〇一八年一月

「海を越え、峡谷に臨む世界文学にむけて―Distant reading から Distance reading へ―比較文学的アプローチの可能性」『図書新聞』三三三八号

二〇一八年二月

「書評 「青磁の断片から―竹山道雄が残した書簡群の一端を垣間見る」平川祐弘編著『手紙を通して読む 竹山道雄の世界』』『ころろ』Vol.41

二〇一八年二月

「中世抒情詩の東西比較からみえてくるもの…十字軍遠征と源平合戦との対比より」『図書新聞』三三三四一号 二〇一八年三月

二〇一八年三月

井上 章一

● 著書

『日文研が若かったころ―創立30周年記念写真集』（編集）国際日本文化研究センター 二〇一七年五月 一六七頁

『美人論』朝日新聞出版（文庫） 二〇一七年六月 三三三頁

『学問をしばるもの』（編集）思文閣出版 二〇一七年一〇月 三八二頁

『京都ざらい 官能篇』朝日新聞出版(新書) 二〇一七年一月二日 二四二頁

●その他の執筆活動

- 「現代洛中洛外もよう」(連載三五四回)『京都新聞』二〇一七年四月一日〜二〇一八年三月三十一日
「大阪まみれ」(連載四三三回)『産経新聞』(夕刊) 二〇一七年四月三日〜二〇一八年三月二六日
「ニッポン七変化」(連載二二回)『共同配信』二〇一七年四月〜二〇一八年三月
「書評 この人に聞け」『週間ポスト』(連載六回) 二〇一七年四月七日号〜二〇一八年二月二日号
「言語学から見たエロ」『ヘアモード』 二〇一七年五月号
「考えるサプリ」『読売新聞』(夕刊) 二〇一七年五月二〇日
「インタビュー 自ら疑うことに値打ち」『産経新聞』二〇一七年五月二二日
「インタビュー 日本を探求 日文研30年の歩み(下)」『産経新聞』二〇一七年五月二二日
「聖徳太子のユーラシア」『アジア遊学・二〇八』 二〇一七年五月二二日
「対談 鼎談「日文研問題」をめぐって(宮地正人、仁藤敦史、倉本一宏と)」『日本研究』第五五集 二〇一七年五月
「結局、日本人とは何なのか?」(第一回〜第一〇回)『小説幻冬』 二〇一七年六月〜二〇一八年三月
「クリスマス・イブのお坊さん」『月刊住職』 二〇一七年六月号
「解説(中島義道「東大助手物語」)」新潮社(文庫) 二〇一七年六月一日
「インタビュー たしなみの文化考 ジャズピアノ」『毎日新聞』 二〇一七年六月六日
「インタビュー 京都にプロスポーツは根付かない?」『京都新聞』(夕刊) 二〇一七年六月一七日
「講評『京都発!手紙でむすぶ家族ふれあい大賞 作品集(第一四回) 京都府』 二〇一七年六月三〇日
「世界が抱く日本のイメージ」『経済人』 二〇一七年七月号
「ゆがめられた関西像」『学士会会報(九二五)』 二〇一七年七月一日
「書評 日本犬の誕生(志村真幸著)」『京都市報』 二〇一七年七月三〇日

- 「阪神タイガースの時代」『大阪ロータリークラブ週報(三〇六一)』二〇一七年八月七日
- 「インタビュー 日本人が外国人から「ひねられている」と思われる理由」『AERA』二〇一七年八月一四〜二二日合併号
- 「明治一五〇年 近代から現在を読む11 鹿鳴館」『西洋化アピールの「付録」』『毎日新聞』(夕刊) 二〇一七年八月二四日
- 「インタビュー 書きものは手書きを宗とす」『サライ』二〇一七年九月号
- 「インタビュー どうせ期待されていないのだから」『鴨東通信』二〇一七年九月
- 「対談 京の暮らし 内と外(杉本節子と)」『藝文京』二〇一七年九月号
- 「インタビュー なんで私が神7!? 選ばれる人の極意」『朝日新聞』(関西スクエア) 二〇一七年九月一日
- 「『沈黙』にひそむ『瘋癲老人日記』の影―遠藤周作と谷崎潤一郎をむすぶ糸」『キリシタンが拓いた日本語文学』(郭南燕編) 明石書店 二〇一七年九月
- 「七日例会報」『現代風俗(二二九)』二〇一七年九月十六日
- 「書評 『古都の占領』(西川祐子著)」「『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年九月三〇日
- 「学問を国という枠からときはなつ―アメリカのフランス革命、ソビエトの明治維新、そして桑原武夫がたどった途」『学問をしばるもの』(井上章一編) 思文閣出版 二〇一七年一〇月 二三四〜二五三頁
- 「真理と自由、そして学会」『学問をしばるもの』(井上章一編) 思文閣出版 二〇一七年一〇月
- 「角屋と桂離宮」『学問をしばるもの』(井上章一編) 思文閣出版 二〇一七年一〇月
- 「対談 明治絶対王政説とは何だったのか(竹村民郎と)」「学問をしばるもの」(井上章一編) 思文閣出版 二〇一七年一〇月
- 「数寄屋でのおたわむれ」『ぎをん(二二二)』二〇一七年一〇月一〇日
- 「応仁の乱以前の建築遺構」『別冊太陽スペシャル 新京都遺産』二〇一七年一〇月二九日
- 「インタビュー 下町のおばちゃんが安藤さんを育てた」『安藤忠雄の奇跡』二〇一七年一月
- 「文化の都の古今東西、そして未来―京都と小京都」『比較文明(33号)』二〇一七年一月
- 「対談 関西を愛する関西人による『関西「喝」性化対談』(旭堂南陵と)』『しびる』三四号 二〇一七年十一月一日

- 「対談 アイドルと「美人」 対談（須田亜香里と）」『朝日新聞』（夕刊） 二〇一七年一月八日
- 「風俗としてのキリスト教（質疑応答記録）」『現代風俗研究会研究大会例会報告記録集』 二〇一七年一月三〇日
- 「書評 『貧困と自己責任の近代日本史』 木下光生著」『日本経済新聞』 二〇一七年二月二日
- 「インタビュアー 白熱京都論（永江朗と）」『朝日新聞』 二〇一七年二月四日
- 「幾何学と比例で、建築はできたのか」伊藤公文編『百書百冊』鹿島出版会 二〇一七年二月二五日
- 「桑原武夫 批判をよるこぶ人」『文芸春秋』 二〇一八年一月号
- 「猫をかぶった人形たち」『月刊みんぱく』 二〇一八年一月号
- 「書評 二〇一八年の潮流を予感させる本」『週刊ポスト』 二〇一八年一月五日号
- 「インタビュアー 老年の主張」『週刊ポスト』 二〇一八年一月五日号
- 「選評」『遼』 二〇一八年一月
- 「対談 アイドルと学者「美人」を語る」『朝日新聞』（夕刊） 二〇一八年一月二〇日
- 「20人が選ぶ新日本遺産一〇〇」『別冊太陽 新日本遺産』 二〇一八年一月二二日
- 「インタビュアー あの人に迫る」『中日新聞』（夕刊） 二〇一八年二月九日
- 「インタビュアー 落語「三枚起請」は色恋の真実!?（桂南光と）」 二〇一八年二月二四日
- 「世界へはばたいた建築家―その出現をささえたもの」『創発する日本へ―ポスト「失われた20年」のデッサン』（アンドルー・ゴードン、瀧井一博編）弘文堂 二〇一八年二月 三二〇〜三二八頁
- 「ファッション主義の精神とプロテスタンティズム」『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、芸術』（郭南燕・将基面貴已編）国際日本文化研究センター 二〇一八年三月
- 「対談 復権へ民の力結集（安藤忠雄、池坊専好、松本正義と）」『読売新聞』 二〇一八年三月一六日

牛村 圭

●その他の執筆活動

(書評) *Marathon Japan: Distance Racing and Civic Culture*, by Thomas R. H. Havens, *Japan Review*, No. 31, November 2017
 「Japan Generalistの功罪」松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和編『なぜ国際日本研究なのか』晃洋書房 二〇一八年三月 七二～

八一頁

(コラム) A Broken Promise 『国際日本文化研究センター(Webサイト)』 二〇一八年五月

榎本 渉

●著書

『なぜ国際日本研究なのか』(松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編) 晃洋書房 二〇一八年三月 一五一頁

●論文

『「参天台五臺山記」(成尋)―未知の世界を記録する』松蘭斉・近藤好和編『史料で読み解く日本史1 中世日記の世界』ミネルヴァ書房 二〇一七年四月 三四一～三五二頁

「中国南方の新羅人―浙江省台州の地名を手がかりに―」吉川真司・倉本一宏編『日本の時空観の形成』思文閣出版 二〇一七年五月 五一～五五三頁

「入唐僧・入宋僧の時代」鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編『日本古代交流史入門』勉誠出版 二〇一七年七月 二〇七～二二二頁
 「対外関係史研究における石井正敏の学問」荒野泰典・川越泰博・鈴木靖民・村井章介編『前近代の日本と東アジア 石井正敏の歴史学』勉誠出版 二〇一七年九月 九～二九頁

●その他の執筆活動

「中世の貿易と海商」歴史科学協議会編『知っておきたい歴史の新常識』 二〇一七年六月 七八～八二頁

大塚 英志

● 著書

『TOBIO Critiques』（編著）太田出版 二〇一七年九月 一二八頁

『動員のメディアミックス〈創作する大衆〉の戦時下・戦後』（編著）思文閣出版 二〇一七年九月 五一七頁

『日本がバカだから戦争に負けた 角川書店と教養の運命』星海社 二〇一七年一〇月 二六五頁

『クウデタア〈完全版〉』（西川聖蘭と共著）KADOKAWA 二〇一七年一〇月 六〇八頁

『まんがでわかるまんがの歴史』（ひらりと共著）KADOKAWA 二〇一七年一二月 三〇四頁

『八雲百怪（3）』（森美夏と共著）KADOKAWA 二〇一七年一二月 一九四頁

『八雲百怪（4）』（森美夏と共著）KADOKAWA 二〇一七年一二月 一九四頁

『『ロードス島戦記』とその時代』（共編著）KADOKAWA 二〇一八年三月 二六四頁

● 論文

「アトム」は文化映画とディズニーの野合を夢見たのか』『TOBIO Critiques』#3 二〇一七年九月 六六〜七四頁

『戦時下のメディアミックス——『翼賛一家』と隣組』大塚英志編『動員のメディアミックス〈創作する大衆〉の戦時下・戦後』二〇一七年九月

二九〜五三頁

『手塚治虫の「擬人化」とその来歴』小松和彦編『進化する妖怪文化研究』せりか書房 二〇一七年一〇月 二五〇〜二六八頁

● その他の執筆活動

『恋する民俗学者2nd シーズン』（第1話〜第8話）（中島千晴と共著）『ComicWalker』二〇一七年四月〜九月

『柳田國男で読む主権者教育』（連載2回）『atプラス』二〇一七年四月〜五月

『妖怪学批判 第3回 妖怪とアヴァンギャルド——メタモルフォーゼという問題』『怪』vol.0050 二〇一七年四月

『"I'll be going blood-simple!"（韓国語）』『MYSTERIA11』二〇一七年四月

『書評 村上春樹『騎士団長殺し』』『週刊ポスト』二〇一七年五月

- 「書評 飯田泰三『大正知識人の思想風景 「自我」と「社会」の発見とそのゆくえ』』『週刊ポスト』 二〇一七年七月
- 「対談 ウルトラモダンが創る人と世の臨界状態（西部邁他と）」『表現者73』 二〇一七年七月
- 「只有结构的日本」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「80年代“文学”的《星球大战》化」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「三岛由纪夫与迪士尼乐园」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「构建“公民民俗学”的可能性」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「萩尾望都如何描绘主人公的内心世界」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「物语的复制与消费」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（一）夏之卷』 二〇一七年七月
- 「解説 『水木しげるとアインシュタイン塔』 『水木しげる漫画大全集』 二〇一七年九月
- 「まんがでわかるまんがの描き方」（連載七回）（砂威・浅野龍哉と共著）『ヤングエース』 二〇一七年九月
- 「『アトム』は文化映画とディズニーの野合を夢見たのか」『TOBIO Critiques』#3 二〇一七年九月
- 「战时下的媒体组合——翼赞一家・邻组・微笑共荣圈」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（二）冬之卷』 二〇一七年一〇月
- 「绘卷为何不同于电影手法——对漫画、动画传统起源说的质疑」（中国語）『中日文化文学比较研究2017（二）冬之卷』 二〇一七年一〇月
- 「妖怪学批判 スピンオフ 北京の都市伝説研究——ウサギマークと終電で帰宅する幽霊たち」『怪』vol.0051 二〇一七年一〇月
- 「自著と感情を語る（感情化する社会）について」『エモーションスタディーズ』 二〇一七年一〇月
- 「書評 青山透子『日航123便 墜落の新事実 目撃証言から真相に迫る』』『週刊ポスト』 二〇一七年一〇月
- 「書評 杉本仁『民俗選挙のゆくえ 津軽選挙の甲州選挙』』『週刊ポスト』 二〇一七年一二月
- 「『おたく』の経済化をもたらした投稿というエコシステム』『激動の平成史』 二〇一八年一月
- 「書評 花森安治『MUJIBOOKS 人と物 花森安治』』『週刊ポスト』 二〇一八年一月
- 「インタビュー 戦時下にサブカルの出発点』『読売新聞』 二〇一八年一月六日
- 「書評 西部邁『保守の真髓 老酔狂で語る文明の紊乱』』『週刊ポスト』 二〇一八年二月

〔平成30年論 第1回〕西部邁の死と「工学化」する保守』『ジセダイ』 二〇一八年二月
〔日本サブカルチャー読本（翻訳・共著）『日本サブカルチャー読本』 二〇一八年三月
「니쁜 사브키etch 독본」(韓国語) 『새물결』 二〇一八年三月

郭 南燕

● 著書

『世界の日本研究2017 国際的視野からの日本研究』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一七年五月 三六〇頁

● 論文

「京都龍安寺石庭的宇宙空間及文学表述」（中国語）『設計東方学的観念和輪郭』中国美術学院出版社 二〇一七年六月 一〜一四頁

● その他の執筆活動

〔翻訳 都靈聖殮布』（林潔と共訳）香港・良友之声出版社 二〇一七年二月

北浦 寛之

● 著書

『テレビ成長期の日本映画―メディア間交渉のなかのドラマ』名古屋大学出版会 二〇一八年三月 三二二頁

● 論文

〔海外展開―『るろうに剣心』の映画化とフィリピンでの人気』山田奨治編『マンガ・アニメで論文・レポートを書く…「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房 二〇一七年四月 一七二〜一九一頁

〔1960年代のエロ・やくざ映画ブームとその背景―プレスシートから探る映画会社の宣伝戦略』大塚英志編『動員のメディアミックス〈創作する大衆〉の戦時下・戦後』思文閣出版 二〇一七年九月 三五七〜三七七頁

〔失われた撮影所システム―バブル崩壊以前／以後の日本の映画製作』アンドルー・ゴードン、瀧井一博編『創発する日本―ポスト「失われ

た20年」のデッサン』弘文堂 二〇一八年二月 一三六〜一六三頁

「テレビ草創期におけるドラマ制作の展開―映画との交渉を通して」郭南燕・将基面貴巳編『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、芸術』国際日本文化研究センター 二〇一八年三月 二五三〜二六一頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「書評 渡辺裕著『感性文化論』』『京都新聞』 二〇一七年六月一日

「時代劇を楽しむ（「現代のことば」）』『京都新聞』 二〇一七年八月一〇日

「海外でのアニメ人気（「現代のことば」）』『京都新聞』 二〇一七年九月二日

「ネット時代のテレビ、テレビ時代の映画（「現代のことば」）』『京都新聞』 二〇一七年十一月二日

「草創期のテレビドラマ（「現代のことば」）』『京都新聞』 二〇一八年一月三〇日

「京都、映画、アーカイブ（「現代のことば」）』『京都新聞』 二〇一八年三月二七日

楠 綾子

●論文

“The Early Years of the Ground Self-Defense Force, 1945-1960” Eldridge, Robert D. and Paul Midford eds, *The Japanese Ground Self-Defense Force*, New York: Palgrave Macmillan, 2017, pp. 59-131

「日本の国際緊急援助・国際防災協力政策の展開」五百旗頭真監修、片山裕編著、栗栖薫子との共同執筆『防災をめぐる国際協力のあり方―グローバル・スタンダードと現場との間で』ミネルヴァ書房 二〇一七年七月 二五〜四六頁

「基地、再軍備、2 国間安全保障関係の態様：1951 年日米安全保障条約の法的意味とその理解」『年報政治学』2017-II 二〇一七年一二月 二二六〜二四七頁（査読付き）

「失われた20年」の外交・安全保障論争』アンドルー・ゴードン、瀧井一博編『創発する日本へーポスト「失われた20年」のデッサン』弘文堂 二〇一八年二月 一八七〜二一五頁

●その他の執筆活動

- 『項目執筆 平和安全法制整備法、外九件』『イミダス「防衛」2017年版』二〇一七年
『書評 赤見友子『総力戦体制下の日本のソフトパワー——外交政策における情報局と同盟通信 1933—45年』』『日本研究』第五六集
二〇一七年一〇月

倉本 一宏

●著書

- 『現代語訳小石記4 敦成親王誕生』吉川弘文館 二〇一七年四月 三六六頁
『日記で読む日本史13 日記に魅入られた人々 王朝貴族と中世公家』（監修、松園斉著）臨川書店 二〇一七年四月 二〇八頁
『戦争の日本古代史 好太王碑、白村江から刀伊の入寇まで』講談社 二〇一七年五月 三〇四頁
『日本の時空観の形成』（吉川真司と共編著）思文閣出版 二〇一七年五月 六〇八頁
『日記で読む日本史2 平安貴族と具注曆』（監修、山下克明著）臨川書店 二〇一七年八月 二四〇頁
『日記で読む日本史7 平安宮廷の日記の利用法』（監修、堀井佳代子著）臨川書店 二〇一七年八月 二七二頁
『日記で読む日本史8 皇位継承の記録と文学』（監修、中村康夫著）臨川書店 二〇一七年八月 一九二頁
『現代語訳小石記5 紫式部との交流』吉川弘文館 二〇一七年一〇月 三二二頁
『藤原氏の研究』雄山閣 二〇一七年一月 二二九頁
『藤原氏権力中枢の一族』中央公論新社 二〇一七年二月 三二〇頁
『日記で読む日本史9 平安朝日記文学総説』（監修、古橋信孝著）臨川書店 二〇一八年三月 二四〇頁
『日記で読む日本史16 徳川日本のナショナル・ライブラリー』（監修、松田泰代著）臨川書店 二〇一八年三月 二九六頁

●論文

『御堂閔白記』古写本・寛仁元年九月卅日条と十月一日条の書写順序をめぐって』吉川真司・倉本一宏編『日本の時空観の形成』思文閣出版

二〇一七年五月 三三三～三五三頁

『御堂関白記』の仮名」新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』二〇一八年一月 一二八～一六四頁

「六人部王の生涯―奈良朝の政変劇を離れて」佐藤信編『律令制と古代国家』二〇一八年三月 二四〇～二六五頁

●その他の執筆活動

「解説 あとがき―「時空」論集に向けて―」『日本の時空観の形成』（吉川真司・倉本一宏編）思文閣出版 二〇一七年五月

「対談 鼎談「日文研問題」をめぐる（司念）（宮地正人、仁藤敦史、井上章一と）『日本研究』第五五集 二〇一七年五月

「解説 鼎談「日文研問題」をめぐる はじめに」『日本研究』第五五集 二〇一七年五月

「悲運の「中関白家」、道長に敗れる」『ミネルヴァ通信「究」』七月号（通算第七六号） 二〇一七年七月

『詳説日本史研究』（共著、「大王と豪族と民衆」「中央集権への歩み」「推古朝の政治」「隋との交渉」「飛鳥文化」「大化改新」「律令国家の形成」

「白鳳文化」「律令法と統治機構」「班田収授法と農民」を執筆 山川出版社 二〇一七年八月 四五～七四頁

「インタビュ― 古代日本の戦争を学ぶ意味（巻頭インタビュ―）」『本』二〇一七年九月号 二〇一七年八月

『御堂関白記』の伝来、「一条天皇・三条天皇・後一条天皇・藤原教通・藤原頼通・花山天皇・藤原兼家・藤原行成・藤原公任・源道方・冷泉天皇」大津透・池田尚隆編『藤原道長事典』二〇一七年九月

「インタビュ― 現代の反日・嫌韓意識の根はどこにあるのか？歴史をひも解き、現代につながる『神話』の背景を探る！（岩上安身による）」

『IWJ YouTUBE Live!』二〇一七年九月

「インタビュ― 日文研・倉本教授新著 帝国志向や対朝鮮観をひもとく」『京都新聞』二〇一七年九月一九日

「インタビュ― 日本誕生の物語 転の章」『サライ』二〇一七年十一月号 二〇一七年一〇月

「インタビュ― 百済復興に隠された律令国家建設の思惑」『歴史街道』二〇一七年二月号 二〇一七年一月

「インタビュ― 現代の反日、嫌韓意識の根を探る。（岩上安身による）その二」『IWJ YouTUBE Live!』二〇一七年十一月

「ボブ・ディランの「スキヤキ」」『文藝春秋』二〇一七年二月号 二〇一七年二月

「インタビュ― 藤原道長の著名な歌ができて来年で千年」『読売新聞』二〇一七年二月二日

「ええやん！かんさい 道長の「この世をば」から千年」『読売新聞』（夕刊）二〇一七年一月七日
「インタビュー 現代の反日、嫌韓意識の根を探る。（岩上安身による）」その三『IWJ YouTube Live!』二〇一八年二月

フレデリック・クレインズ

●著書

『国際日本文化研究センター所蔵日本関係欧文図書目録—1900年以前刊行分—』第四卷（編集、光平有希・小川仁と共著）臨川書店 二〇一八年二月 九六〇頁

●その他の執筆活動

「エンゲルベルト・ケンベル『日本史』フランス語版所収」『日本研究』第五五集 二〇一七年五月
「インタビュー 家康 国際情勢見極め裁定 日研調査「冷静な為政者」評価」『読売新聞』（夕刊）二〇一七年六月一九日
「インタビュー 海外で所蔵の日本関係資料 研究、さらなる連携を 福岡市で人間文化研究機構シンポジウム」『西日本新聞』二〇一七年七月三日
“Pracy or Privatizing: The Capture of the Santo Antonio in 1615 and the Bakufu's Response.” Shigenji Inaga ed., *A Pirate's View of World History: A Reversed Perception of the Order of Things From a Global Perspective*. International Research Center for Japanese Studies, August 2017, 129 pages.

「インタビュー オランダ人の日本誌 17世紀、想像交え「京」を描く」『京都新聞』二〇一七年八月一六日
「インタビュー 在外資料で探る江戸時代 平戸オランダ貿易誘致」『読売新聞』二〇一七年八月一九日
「インタビュー 豊臣方放火魔洛中ぞろぞろ 大坂夏の陣直前克明に オランダ商務員書簡」『京都新聞』（夕刊）二〇一七年八月二二日
「インタビュー にじむオランダ商魂 大名上洛見込み需要増狙う 大坂夏の陣前の書簡」『京都新聞』（夕刊）二〇一七年八月二二日
「インタビュー 平戸の按針 不当な処遇 オランダ商館文書を解説」『西日本新聞』二〇一七年九月九日
「インタビュー もっと知って！日研 来月、創立30周年の催し多彩」『京都新聞』二〇一七年九月一九日
「イザーク・ティチンゲ『日本風俗説』パリ、一八一九年」『日本研究』第五六集 二〇一七年一〇月
「インタビュー 自由な知の「箱」日研30年 分野を横断 外国の目で磨き」『朝日新聞』二〇一七年一〇月三日

「インタビュー 海外に眠る歴史資料 活用法は シンポジウム「海に向こうの日本文化」『朝日新聞』二〇一七年一〇月三一日

「インタビュー 民衆を主語に内戦史を読み解く 日文研で歴史学者四人講演『京都新聞』二〇一七年一二月一日

Interview “Hoe dekoloniseer je een archief? Verslag VOC-Symposium” Historical, December 2017

「日本関係欧文史料と史料批判についての教育プログラム開発」『きょうし』二二〇一八年三月

「ハインリッヒ・シェラー」『アメリカ・アジア間の距離』（ミュンヘン、一七二〇年刊）『日文研』六〇号 二〇一八年三月

吳座 勇一

●著書

『陰謀の日本中世史』角川新書 二〇一八年三月 三四四頁

●論文

「一族一揆再考―一門評定の再検討を中心に」『信濃』一二月号 二〇一七年一二月 八八七〜九〇一頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「インタビュー 著者インタビュー」『スポーツ報知』二〇一七年四月二二日

「交流の歴史学」（連載一〜一回）『朝日新聞』二〇一七年四月二二日〜二〇一八年三月三一日

「インタビュー 『応仁の乱』ベストセラー著者に聞く、知られざる室町時代の魅力」『歴史REAL』二〇一七年四月

「対談 応仁の乱から現代を照射する（垣根涼介と）」『別冊宝島』2570』二〇一七年四月

「インタビュー 『応仁の乱』著者インタビュー」『東京新聞』二〇一七年五月六日

「インタビュー 『応仁の乱』著者インタビュー」『産経新聞』二〇一七年五月三一日

「インタビュー 『応仁の乱』著者インタビュー（元木昌彦と）」『エルネオス』二〇一七年五月号 二〇一七年六月

「応仁の乱と第1次世界大戦」『文藝春秋』六月号 二〇一七年六月

「インタビュー 硬派歴史書が大ヒット 37万部越え『応仁の乱』」『産経新聞』二〇一七年六月五日

- 「インタビュアー 『応仁の乱』 著者インタビュアー」『日経おとなのOFF』二〇一七年七月号 二〇一七年六月六日
- 「インタビュアー 『応仁の乱』 著者インタビュアー」『歴史街道』二〇一七年八月号 二〇一七年六月六日
- 「インタビュアー 『応仁の乱』 著者インタビュアー」『日刊スポーツ』二〇一七年六月一日
- 「インタビュアー 戦国前夜の日本史」『三オブックス』二〇一七年六月
- 「書評 近年の国内ディストピアSF」『群像』講談社 二〇一七年七月
- 「解説 異端者たちの武士道」『和田竜読本』二〇一七年七月
- 「インタビュアー 『応仁の乱』 著者インタビュアー」『日経トレンドディ』二〇一七年七月号 二〇一七年七月
- 「インタビュアー 『応仁の乱』 著者インタビュアー」『商工ジャーナル』二〇一七年九月
- 「解説 歩けばわかる「応仁の乱」『サライ』二〇一七年九月
- 「書評 石原千秋著『漱石と三人の読者』『京都新聞』二〇一七年九月一〇日
- 「書評 空想書店」『読売新聞』二〇一七年一〇月八日
- 「書評 亀田俊和著『観応の擾乱』『朝日新聞』二〇一七年一〇月二〇日
- 「対談（出口治明と）」『週刊文春』二〇一七年十一月一日号 二〇一七年十一月
- 「インタビュアー 編集委員インタビュアー 混沌の時代現代人も共感 応仁の乱、ブームの理由は？」『神戸新聞』二〇一七年十二月三日
- 「インタビュアー 等身大欲す「平成の乱」『毎日新聞』二〇一七年十二月五日
- 「インタビュアー ええやん！ かんさい 語る聞く「応仁の乱 現代と酷似」『読売新聞』（夕刊）二〇一八年一月二〇日
- 「インタビュアー Vivid Voice 歴史学者インタビュアー」『駿台予備校「SUNDAI ADVANCE」』二〇一八年二月
- 「読まないと後悔する本 呉座勇一が選ぶ日本の戦の本6冊」『SPA!』二〇一八年三月
- 「インタビュアー 新著『陰謀の日本中世史』について語る」『京都新聞』二〇一八年三月一二日
- 「インタビュアー 『陰謀の日本中世史』を書いた 呉座勇一さん」『北海道新聞』二〇一八年三月二五日

小松 和彦

● 著書

『47都道府県・妖怪伝承百科』（常光徹と監修、香川雅信・飯倉義之編著）丸善出版 二〇一七年九月 三二〇頁

『進化する妖怪文化研究』（編著）せりか書房 二〇一七年一〇月 五〇二頁

● 論文

「洪水怪異伝承の構造と意味」小松和彦編『進化する妖怪文化研究』せりか書房 二〇一七年一〇月 一〇〇～三五頁

「ミクロネシアの離島で日本文化を考える 妖怪譚を中心に」郭南燕・将基面貴巴編『南太平洋から見る日本研究…歴史、政治、文学、芸術』

国際日本文化研究センター 二〇一八年三月 一一～二六頁

● その他の執筆活動

「対談 「みんぱくと日文研」(上) 『吉田憲司と』『毎日新聞』(夕刊) 二〇一七年四月二〇日

「対談 「みんぱくと日文研」(下) 『吉田憲司と』『毎日新聞』(夕刊) 二〇一七年四月二七日

「講演資料等 埼玉大学フェロー称号授与記念講演会 謎解きという快楽に魅せられてー私の学問人生ー」『SAIDAI CONCERGE』vol.25

二〇一七年五月

「講演資料等 創立30周年を迎えてー大衆文化研究を起爆剤にー」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No.95 二〇一七年五月

「インタビュー 日本を探求 日文研30年の歩み 上」『産経新聞』二〇一七年五月一日

「インタビュー 日文研30年 大衆文化 世界へ発信」『京都新聞』二〇一七年五月二四日

「インタビュー 日文研が創設三〇年迎え記念行事 日本研究の将来問う」『日本経済新聞』二〇一七年六月一〇日

「私の住まい第二三七回 窓から見えるもの」『週刊現代』第五九卷第二五号 二〇一七年七月

「インタビュー 連載22 将来はノーベル賞!? 大学地下研究室 妖怪は私たちの願望を映す鏡です」『日刊ゲンダイ』二〇一七年七月六日

「まえがき」『47都道府県・妖怪伝承百科』（常光徹と監修、香川雅信・飯倉義之編著）丸善出版 二〇一七年九月 i・ii頁

「序」『進化する妖怪文化研究』（小松和彦編）せりか書房 二〇一七年一〇月 五～八頁

「編集後記」『進化する妖怪文化研究』（小松和彦編）せりか書房 二〇一七年一〇月 四九二～四九九頁

「講演資料等 基調講演 妖怪の魅力はどこにあるのか？」『人間文化』vol.27 二〇一七年一〇月

「講演資料等 パネルディスカッション 第2部「妖怪空間―でそうな場所―」『人間文化』vol.27 二〇一七年一〇月

「インタビュー 小松教授の異界研究 シルクロードを通った鬼たち」『怪』vol.0051 二〇一七年一〇月

「インタビュー 研究は楽しい謎解き！私の妖怪研究史を語る」『週刊もしもしんぶん』二〇一七年一〇月

「講演資料等『鬼』が来た道―シルクロードと日本の妖怪文化」『知恩』第八八三号 二〇一七年一二月

「インタビュー「妖怪」研究20年 進む評価 伝承DB 文化史欠落埋める」『読売新聞』（夕刊）二〇一八年一月一五日

「インタビュー 京都経済・観光特集 「文化首都」として一層の情報発信を」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一八年二月二七日

「小松教授の異界研究 蛇と結婚すると蛇になる！異界論のための基礎知識」『怪』vol.0052 二〇一八年三月

「対談「怪」20周年記念座談会（荒俣宏、京極夏彦、郡司聡と）」『怪』vol.0052 二〇一八年三月

「インタビュー データベースの森 河童の姿」『京都新聞』二〇一八年三月二一日

佐野 真由子

● 著書

『国際研究集会「万国博覧会と人間の歴史」報告書』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一七年一月 二〇三頁

● その他の執筆活動

「異文化の目で日本を見る楽しさ」『長崎県立大学佐世保校附属図書館図書館だより』No.27 二〇一七年四月

「インタビュー 創立の物語と今 日文研の日々（下） 国際的知的交流の軸に」『朝日新聞』二〇一七年四月二三日

「共同研究会『万国博覧会と人間の歴史』から考える」（郭南燕編）『世界の日本研究2017 国際的視野からの日本研究』二〇一七年五月

「インタビュー 文化政策としての都市計画」『Planners』八五号 二〇一七年五月

「幕末外交儀礼から考える日本研究の可能性——本当に丸い地球のために」（講演記録）『アジア日本研究ネットワーク 第三回会議報告書』3

二〇一七年六月

「文化資源学会の魅力」『文化資源学』第一五号 二〇一七年六月

「インタビュー 長崎は歴史の転回点 『既成概念』疑って」『長崎新聞』二〇一七年六月一日

「『新町の黄色い網』に遠方より思いを馳せる」『京都新聞』二〇一七年八月一日

「筒井政憲さん」『京都新聞』二〇一七年九月二二日

「出島から考える『開国』『長崎史観』推進を」(講演要旨)『長崎新聞』二〇一七年一月二二日

「おとなの学び」『京都新聞』二〇一七年一月二四日

「二〇二五年の万博」『京都新聞』二〇一八年二月二八日

白石 恵理

●その他の執筆活動

「日文研フォーラム・レポート」『国際日本文化研究センター(Webサイト)』二〇一八年二月

「木曜セミナー・レポート」『国際日本文化研究センター(Webサイト)』二〇一八年二月

「イブニングセミナー・レポート」『国際日本文化研究センター(Webサイト)』二〇一八年三月

瀧井 一博

●著書

『創発する日本へーポスト「失われた20年」のデッサン』(アンドルー・ゴードンと共編) 弘文堂 二〇一八年二月 四〇〇頁

●論文

「日本文明論のゆくえー様々な日本へ」アンドルー・ゴードン、瀧井一博編『創発する日本へーポスト「失われた20年」のデッサン』弘文堂

二〇一八年二月 三五―三三二頁

●その他の執筆活動

「対談 伊藤博文はローマで何を見たか（宇野重規と）」『中央公論』第一三一巻第四号 二〇一七年四月

「書評 片山杜秀、島蘭進『近代天皇論―「神聖」か、「象徴」か』」『公明新聞』二〇一七年四月三日

「政治学の古典を読む（一九）理への献身（清沢洌『外政家としての大久保利通』中公文庫、一九九三年）」『究』第七四号 二〇一七年五月

「明治一五〇年 近代から現在を読む 憲法制定」『毎日新聞』（夕刊）二〇一七年五月一八日

「インタビュー 天皇退位特例法が成立 皇室典範に規定必要」『読売新聞』二〇一七年六月一〇日

「政治学の古典を読む（二〇）象徴天皇制の源流？（北一輝『国体論及び純正社会主義』みすず書房、一九五九年）」『究』第七七号 二〇一七年八月

「書評 家近良樹『西郷隆盛』（ミネルヴァ書房、二〇一七年）」『日本経済新聞』二〇一七年九月九日

「後藤新平と伊藤博文―二つの個性のダイナミズム」『後藤新平の会 会報』第一七号 二〇一七年十一月

「政治学の古典を読む（二一）権力政治家の肖像（岡義武『山県有朋―明治日本の象徴』岩波新書、一九五八年）」『究』第八〇号 二〇一七年十一月

「五箇条の御誓文から明治憲法まで」『明治一五〇年』関連施策の推進に向けて〜有識者からの寄稿集〜』二〇一七年二月

「政治学の古典を読む（二二）失われた二十年のその後（『大平総理の政策研究会報告書』自由民主党広報委員会出版局、一九八〇年）」『究』第八三号 二〇一八年二月

「書評 小野寺龍太『岩瀬忠震』（ミネルヴァ書房、二〇一八年）」『日本経済新聞』二〇一八年二月一七日

坪井 秀人

●論文

「大手拓次とは誰か ― 神話化されてきた詩人像 ―」『詩人大手拓次― 孤独の箱のなかから ―』（大手拓次生誕100年記念展図録）二〇一七年四月 三二〜三三頁

- 「特集日本研究の過去・現在・未来 はじめに」『日本研究』第五五集 二〇一七年五月 九〜一三頁
- 「二十世紀日本語を思い出す²³」『現代詩手帖』六〇巻五月号 二〇一七年五月 一五八〜一六七頁
- 「二十世紀日本語を思い出す²⁴」『現代詩手帖』六〇巻六月号 二〇一七年六月 一八四〜一九四頁
- 「二十世紀日本語を思い出す²⁵」『現代詩手帖』六〇巻七月号 二〇一七年七月 一四八〜一五八頁
- 「テロルの未決算——大江健三郎「政治少年死す」ほか——」『昭和文学研究』第七五集 二〇一七年九月 一四四〜一四六頁
- 「旧満洲留用者の戦後」『韓国日本学会叢書』二〇一八年二月 一四五〜一七〇頁

●その他の執筆活動

- 「痘痕」(小森陽一・飯田祐子・五味洵典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編)『漱石辞典』翰林書房 二〇一七年五月 三八五〜三八六頁
- 「園遊会」(小森陽一・飯田祐子・五味洵典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編)『漱石辞典』翰林書房 二〇一七年五月 九八〜九八頁
- 「欧化主義」(小森陽一・飯田祐子・五味洵典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編)『漱石辞典』翰林書房 二〇一七年五月 九八〜一〇〇頁

パトリシア・フィスター

●論文

- “Visual Culture in Japan’s Imperial Buddhist Convents: The Making of Devotional Objects as Expressions of Faith and Practice.” *Zen and Material Culture*, Oxford Press, June 2017, pp. 164-196 (査読付)
- “Commemorating Life and Death: The Memorial Culture Surrounding the Rinzai Zen Nun Mugai Nyodai.” *Women, Rites, and Objects in Pre-modern Japan*, Brill, March 2018, pp. 269-303 (査読付)

●その他の執筆活動

- 「日文研30周年記念に思う」*NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 95 二〇一七年五月

ジョン・ブリン

● 著書

A Social History of the Ise Shrines: Divine Capital (co-authored with Mark Teeuwen), Bloomsbury, April 2017, 302 pages.

「解説 飛鳥井雅道と明治大帝」飛鳥井雅道編『明治大帝』文藝春秋 二〇一七年二月 三三〇～三四八頁

● 論文

“Amaterasu's progress: the Ise shrines and the public sphere of postwar Japan,” Hugh Cortazzi ed., *Carmen Blacker: scholar of Japanese religion, myth and folklore: writings and reflections*, Renaissance Books, 2017, pp. 396-412

● その他の執筆活動

(編集) *Japan Review*, No.31, November 2017

古川 綾子

● その他の執筆活動

「上方落語の舞台 十選」(連載二回)『日本経済新聞』(全国版) 二〇一七年四月三日～四月四日

「現代のことば」(連載二回)『京都新聞』(夕刊) 二〇一七年四月五日～六月五日

「京唄子さんを悼む」『共同通信』(一五紙掲載) 二〇一七年四月一五日

「悼む・京唄子さん」『毎日新聞』 二〇一七年五月一四日

「インタビュー 講談浪曲の今・新趣向古典芸を究めてこそ」『朝日新聞』 二〇一七年九月七日

細川 周平

● その他の執筆活動

「沖繩的音楽文化」(中国語、周耘翻訳)『黄鐘 武漢音乐学院学报 Journal of Wuhan Conservatory of Music』 二〇一七年九月

「書評 斎藤嘉臣『ジャズ・アンバサダーズ―「アメリカ」の音楽外交史』講談社選書メチエ」『ポピュラー音楽研究』二〇一七年十二月
「お達者で」『わたしの「もったいない語」辞典』二〇一八年一月

「Francesco Cafiso + Mauro Schiavone duo concert (二〇一七年二月九日 ナリッジ・シアター)」『Jazz Tokyo』二〇一八年一月

「舞踏子守唄」『室伏鴻集成』二〇一八年一月

「室伏鴻の突っ立つ行間」『室伏鴻集成』二〇一八年一月

「みわぞうと冬のソングブック〜みわぞうブレヒトを歌う」(二〇一八年一月一二日 中目黒 Cafe & Live spot FJ's) 『Jazz Tokyo』二〇一八年二月

前川 志織

● 著書

『教科書制作プロジェクト報告書 国際シンポジウム「海外が求める日本大衆文化研究のための教科書とはなにか」』(国際日本文化研究センタープロジェクト推進室として共編) 国際日本文化研究センタープロジェクト推進室 二〇一八年三月 七五頁

『なぜ国際日本研究なのか』(松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編) 晃洋書房 二〇一八年三月 一五一頁

● 論文

「チョコレートの喩えとしての「少女」…1930年代における雑誌『少女の友』森永チョコレート広告をてがかりに」『デザイン理論』No.70
二〇一七年七月 四九〜六二頁

松田 利彦

● 著書

『なぜ国際日本研究なのか』(松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編) 晃洋書房 二〇一八年三月 一五一頁
● 論文

「なぜ国際日本研究なのか」松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編『なぜ国際日本研究なのか』晃洋書房 二〇一八年三月

一七頁

●その他の執筆活動

「書評 加藤圭木『植民地期朝鮮の地方変容―日本の大陸進出と咸鏡北道』(吉川弘文館、二〇一七年)」「日本史研究」第六六四号 二〇一七年
一二月

「東アジア日本研究者協議会のこと」『青丘文庫月報』第二九〇号 二〇一八年二月

安井 眞奈美

●著書

『グリーフケアを身近に―大切な人を失った哀しみを抱いて』(編集) 勉誠出版 二〇一八年二月 一九六頁

●論文

「近代性―産科医・助産師の活躍する『医療マンガ』」山田奨治編『マンガ・アニメで論文・レポートを書く…「好き」を学問にする方法』ミネ
ルヴァ書房 二〇一七年四月 一〇九―一二五頁

“Depictions and Modelings of the Body Seen in Japanese Folk Religion: Connections to Yokai Images,” *Advances in Anthropology, Special Issue on Folk
Life and Folk Culture 2017 July, July 2017*, pp. 79-93 (査読付き)

「妖怪を創ろう! 海外・ハンガリー編」小松和彦編『進化する妖怪文化研究』せりか書房 二〇一七年一〇月 三五七―三六九頁

「妊娠、出産における死―グリーフケアの物語と実践にむけて (임신・출산 시의 죽음―그리프 케어의 이야기와 실천을 향해서)」崔嘉珍(翻
訳)『日本文化の現場と現在 (일문문화의 현장과 현재)』二〇一八年二月 一七―三三頁

●その他の執筆活動

「奈良県」『47都道府県・妖怪伝承百科』(小松和彦・常光徹監修、香川雅信・飯倉義之編著)丸善出版 二〇一七年九月

「インタビュー 民俗学的視点とグリーフケアを考える」『読売新聞』(夕刊) 二〇一七年九月二七日

- 「フィールドワークがもたらす出会い」 *NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 96 二〇一七年十二月
 「インタビュー 探索！データベースの森 日文研30年 妖怪「やぎめ」」 『京都新聞』 二〇一七年十二月二〇日
 「妖怪に性別はあるのか」 『怪』 vol. 0051 二〇一八年三月

山田 奨治

● 著書

『マンガ・アニメで論文・レポートを書く…「好き」を学問にする方法』（編集）ミネルヴァ書房 二〇一七年四月 二六八頁

● 論文

『序章 マンガ・アニメで研究するということ』 山田奨治編『マンガ・アニメで論文・レポートを書く…「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房 二〇一七年四月 一〇一〇頁

“Who Moved My Masterpiece? Digital Reproduction, Replacement, and the Vanishing Cultural Heritage of Kyoto,” *International Journal of Cultural Properties* vol. 24, October 2017, pp. 295-320

「米国と企業の利益」対「利用者の要望」…1990年代から日本の著作権法はどのように変化したか」アンドルー・ゴードン、瀧井一博編『創発する日本ヘーポスト「失われた20年」のデッサン』弘文堂 二〇一八年二月 二九三〜三〇九頁

「フィクションが伝える弓道の魅力をめぐって」『武道学研究』第五〇巻第三号 二〇一八年三月 二〇一〜二〇四頁

● その他の執筆活動

- 「インタビュー 「共謀罪」でコミケどうなる 二次創作萎縮の恐れ」『東京新聞』 二〇一七年五月二二日
 「インタビュー 著作権70年延長再考を」『京都新聞』 二〇一七年九月二二日
 「社会に開かれた大学博物館とは 京都精華大学と京都国際マンガミュージアム」『AD STUDIES』 二〇一八年三月

吉江 弘和

● 著書

『なぜ国際日本研究なのか』（松田利彦・磯前順一・榎本渉・前川志織・吉江弘和共編）晃洋書房 二〇一八年三月 一五一頁

マルクス・リュッターマン

● 著書

（共編）*Japonica Humboldtiana*, Michael Kinski, Klaus Kracht eds., Harrassowitz Verlag, February 2018, 220 pages.

● その他の執筆活動

「年月を表象する意図および元号の意味をめぐって」『日文研』六〇号 二〇一八年三月

劉 建輝

● 著書

『異邦から／へのまなざし 見られる日本・見る日本』（白幡洋三郎と共編著）思文閣出版 二〇一七年五月 二五五頁

『「日中戦争」とは何だったのか 複眼的視点』（黄自進・戸部良一と共編著）ミネルヴァ書房 二〇一七年九月 三八八頁

『大連とどこどころ 画像でたどる帝国のフロンティア』（秦源治・仲万美子と共著）晃洋書房 二〇一八年三月 二六二頁

● その他の執筆活動

「インタビュアー 従軍画家の絵はがき分析」『読売新聞』二〇一七年九月二一日

「インタビュアー 「外国人の見た富士山」探検！データベースの森」『京都新聞』二〇一七年九月二〇日